

院外非専門医肝炎ウイルス陽性者対策の取り組み

研究分担者：末次 淳 岐阜大学大学院医学系研究科 消化器内科学
研究協力者：清水 雅仁 岐阜大学大学院医学系研究科 消化器内科学

研究要旨：肝臓癌は、HBV あるいは HCV の持続感染を背景に多く発症することが明らかにされ、肝炎ウイルスの排除が肝臓癌の発症を低下させることが証明されている。我が国では肝炎治療促進のための肝炎ウイルス検査促進・肝疾患診療体制の整備、相談体制の整備・知識の普及啓発の促進を行なわれ、検査数・受診数が上がってきている。また検診による HBV、HCV 感染者拾い上げ、専門医療機関への受診勧奨、受診成果も上がっている。しかし、肝炎ウイルスに感染していることに気づいていない、肝炎ウイルスに感染していることを知りながら放置している、肝炎ウイルス排除後受診の中断などが未だ存在していることが課題である。治療に結びついていない症例を拾い上げ、治療に導くことは急務となっており、非専門医より専門医に受診する取り組みを展開していくことが重要である。更なる陽性者の発見が望まれるが、発見契機としては「術前検査」が重要とされている。眼科で行われる手術前検査は非常に多く、各病院内診療科で上位 3 位以内に入り、高齢者も多いため HCV 陽性率が高い結果がある。本研究では眼科術前における HCV 抗体陽性者の状況や治療への結びつく課題について検討した。

A. 研究目的

本邦には約 150 万人程度の C 型肝炎ウイルスキャリアがいると推定され、国内最大の感染症であったが、経口薬のみの治療が登場し治療効果が上昇し、実際多数の HCV 陽性者が治療し、ウイルス排除ができた。しかし、HCV に感染していることを知らないキャリアが存在していることや感染していることに本人が知りながら治療に結びついていないなどの問題もある。さらに、非肝臓専門科医師の認識不足、新規薬剤の情報を知らない、あるいは院内・外連携の欠如のために、肝炎検査陽性者が適切な治療に結びついていない現状もある。

電子カルテアラートシステムを利用したり、院内の他職種連携による肝炎ウイルス陽性者対策により、HCV 治療に結びついた件数が増加している。本研究では、更なる陽性者の発見・治療が望まれるため、発見契機としては「術前検査」が重要とされている。非専門医の中でも眼科で行われる手術前検査は

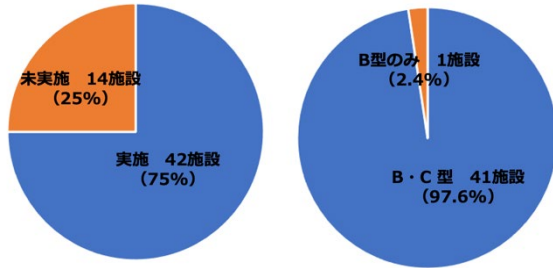
非常に多く、各病院内診療科で上位 3 位以内あるいは、受診患者の高齢者も多いため HCV 陽性率が高い結果があり、HCV 抗体陽性者の状況や治療への結びつく課題について検討した。

B. 研究方法

日本眼科医会は、肝炎等克服政策研究事業「新たな手法を用いた肝炎ウイルス検査受診率・陽性者受診率の向上に資する研究班」に協力しており、岐阜県眼科医会の協力のもと、県内の現状について調査アンケートを実施した。期間は 2022 年 2 月～3 月で対象は岐阜県眼科医会会員 130 施設である。方法として FAX / メールによるアンケート回答を行った。

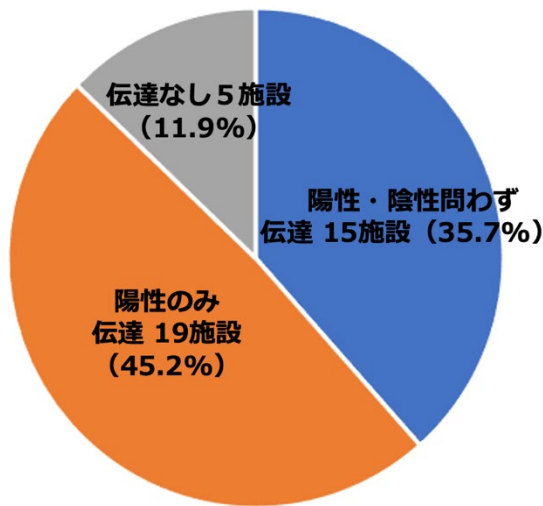
C. 研究結果

1. 定期的に手術を実施されている施設数と術前検査項目の肝炎ウイルス



アンケートに回答いただいた 56 施設中、定期的に眼科的手技を行っている施設は、42 施設（75%）の結果であった。定期的に眼科的手技を行っている 42 施設中、1 施設（2.4%）が B 型のみ肝炎ウイルス検査を実施されており、41 施設（97.6%）では B 型・C 型の肝炎ウイルス検査を実施されていた。（上図）

2. 肝炎ウイルス検査結果の伝達と対策



検査結果伝達については、15 施設（35.7%）で、陽性・陰性問わず患者様に伝達、19 施設（45.2%）では、陽性の患者様のみ伝達をされている一方、5 施設（11.9%）では、検査結果伝達はされていない状況であった。（上図）肝炎ウイルス検査は時間がかかり患者に後日再来院してもらうため手間がかかるなどがあり、伝達忘れのリスクがあるため他の血液検査と同じ時に説明するようにしているなどの意見もあった。

肝炎ウイルス陽性の場合の対応がわからな

いなどの意見や本人が把握していない陽性症例は、全例肝臓専門医受診をすすめるべきかなどの意見があり、肝炎ウイルス陽性者が受診できるよう簡易的な診療情報提供書を作成した。また診療所に近医の肝臓専門医が勤務する専門医療機関がわかるよう裏面に一覧を掲載した。（下図）また、上記書面を県医師会 病院協会 肝疾患診療支援センターのホームページに掲載していただいた。

診療情報提供書（I）

年 月 日

病院・センター
消化器内科 担当医殿

医療機関名： _____
所在地： _____
電話： _____
医師氏名： _____ 印

貴院を紹介させていただきますので、ご高診の程宜しくお願いします。

フリガナ	性別	男	女
患者氏名			
生年月日	大正・昭和 平成・令和	年 月 日生（ 歳）	職業
住所	電話番号		
病名	<input type="checkbox"/> B型肝炎 <input type="checkbox"/> C型肝炎 <input type="checkbox"/> その他（ ）		
紹介目的	<input type="checkbox"/> _____ の術前検査において、患者が肝炎ウイルス陽性であることが確認されました。 <input type="checkbox"/> その他（ ）		
既往歴及び家族歴			
検査結果	※必ずご記入ください。 <B型肝炎> HBs抗原 : <input type="checkbox"/> 陽性 <input type="checkbox"/> 陰性 <C型肝炎> HCV抗体 : <input type="checkbox"/> 陽性 <input type="checkbox"/> 陰性 <その他>		
臨床経過			
現在の処方			
備考			

備考1. 必要がある場合は続紙に記載して添付すること。

2. 必要がある場合は画像診断のフィルム、検査の記録を添付すること。

3. 紹介先が保険医療機関以外である場合は、紹介先医療機関等名の欄に紹介先保険薬局、市町村、保険所名等を記入すること。かつ、患者住所及び電話番号を必ず記入すること。

岐阜県の肝疾患に関する専門医療機関に関しては、裏面をご覧ください。

D. 考察

今回の結果より、アンケートに回答いただいた定期的に眼科の手技を行っている眼科医は肝炎ウイルス検査を実施されていた。また、検査結果伝達については、陽性・陰性問わず結果を伝達している施設は、35.7%で、陽性のみ伝達をされている施設は、45.2%であった。しかし、11.9%の施設は、検査結果を伝達されていない状況であった。原因とし

て肝炎ウイルス検査は、結果が出るまでに時間がかかることで陽性陰性の結果を本人に伝えることが困難であった可能性が考えられた。よって術後検査結果を伝えていない非専門医の中に肝炎ウイルス陽性者がいることも考えられた。

E. 結論

多数の眼科施設で術前の肝炎ウイルス検査が施行されていたが、検査結果について伝達している施設もあったが、検査結果を伝達されていない状況もあった。簡易な診療情報提供書およびホームページに掲載した以降、眼科(非専門医)より紹介もあり、更なる非専門医に通院する肝炎ウイルス陽性者の紹介、治療が望まれる。

F. 政策提言および実務活動

<政策提言>

厚生労働科学研究費・肝炎等克服政策研究事業「新たな手法を用いた肝炎ウイルス検査受検率・陽性者受診率の向上に資する研究」研究分担者として研究活動を行い、県内の肝炎ウイルス検査の増加推進の取り組みを行っている。

<研究活動に関連した実務活動>

上記に研究班活動に加えて、岐阜大学医学部附属病院(肝疾患診療連携拠点病院)内で肝炎検査・治療に関する推進活動に携わっている。また岐阜県肝炎対策協議会と連携し、肝炎撲滅対策に取り組んでいる。

G. 研究発表

1. 発表論文

Hidaka I, Enomoto M, Sato S, Suetsugu A, Matono T, Ito K, Ogawa K, Inoue J, Horino M, Kondo Y, Sakaida I, Korenaga M. Establishing Efficient Systems through

Electronic Medical Records to Promote Intra-hospital Referrals of Hepatitis Virus Carriers to Hepatology Specialists: A Multicenter Questionnaire-based Survey of 1,281 Healthcare Professionals Intern Med. 2021;60(3):337-343.

肝疾患診療連携拠点病院における肝炎医療コーディネーターの現状

榎本 大、日高 勲、井上泰輔、磯田広史、井出達也、荒生祥尚、内田義人、井上貴子、池上 正、柿崎 暁、瀬戸山博子、島上哲朗、小川浩司、末次 淳、井上 淳、遠藤美月、永田賢治、是永匡紹 肝臓 62 巻 2 号 96-98 2021

2. 学会発表

なし

3. その他

啓発資材

なし

啓発活動

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし